

## 1 事業内容

事業の名称 小佐中山間地の自然環境改善プロジェクト

日時

### ①自然環境の改善

★日時:8月14日→水性生物学習

場所:椿色公会堂周辺

内容:ヤマメと触れ合おう

★日時:10月19日→植物植生学習

場所:名草神社周辺

内容:妙見周辺の植物について

### ②有機農業の実践(大根)

★日時:9月7日(日)13:00～ →有機野菜の栽培学習

場所:椿色公会堂周辺の畑

内容:冬野菜を有機栽培する

★日時:10月19日(日) →有機農業の基本学習

場所:椿色公会堂

内容:有機野菜と食の安全

### 【事業経過】

月 日	実施内容	場所	参加人数	主な経費
7/5(土)	今年度事業概略について	小佐地区自治協議会	15名	コピー代
	事前準備打合せ会議	椿色公会堂	10名	資料コピー代
7/19(土)	今年度事業の詳細会議	椿色公会堂	15人	コピー代
	事前準備打合せ会議	椿色公会堂	15人	資料コピー代
8/14(木)	水生生物学習	椿色公会堂周辺	150人	魚購入代
	事前準備打合せ会議	椿色公会堂	5人	資料コピー代
9/7(日)	有機野菜の栽培実践学習	椿色公会堂周辺の畑	15人	講師費用・旅費
	事前準備打合せ会議	椿色公会堂	5人	資料コピー代
10/19(日)	有機野菜の基礎学習	椿色公会堂周辺の畑	15人	講師費用・旅費
	事前準備打合せ会議	椿色公会堂	5人	資料コピー代
11/9(日)	植物植生学習	名草神社周辺	5人	講師費用・旅費
	実施事業全体の反省と次年度への課題	小佐地区自治協議会	10人	資料コピー代

## 2 事業の効果

### (1) 団体（組織）内の効果

- ・普段つながりの浅い「地域の若者」が、色々な面で協力をしてくれて、老いも若きも事業に取り組むことで一体感が増した。
- ・地域から都市部へ移住している住民も、楽しいイベントが開催されるために帰省する家族が増えた。
- ・楽しくて活気のあるイベントを次年度以降も自分たちがお金を出し合ってやっていけばいいという意見が聞かれるようになった。

### (2) 地域への波及

- ・実習農場を椿色区に開設したことで、家庭菜園で有機栽培に取り組んでみようという人が増えた。
- ・小佐8地区からの参加者がそれぞれの地域で自然環境に対する考え方を広めていき、「持続可能な地域社会作り」に向けて動き出す人が増えていきそうである。
- ・有機農業に対する理解度が高まり、有機農業実施圃場・耕地が増加していきそうである。

- ・小佐川の自然環境を昔のように戻して、ヤマメの生息数を増やしていこうという意識が高まりつつある。
- ・小佐川全体にホタルの生息域を広げ、ホタルの里としてアピールできる

### 3 協働の相手方

- ・
- ・兵庫県農漁村社会研究所理事 西村いつき先生
- ・兵庫県有機農業研究会 理事長 保田 茂先生
- ・神戸市の環境プランナー 林 徹 氏

### 4 今後の課題等

#### (1) 団体（組織）活動を継続するための工夫等

- ・地域貢献をしてくれる企業に声かけをして、寄付金を募る。
- ・地域内で「村おこし」的なイベントとして、継続していけるように摩る。
- ・交流人口を増やしていくイベントとして「小佐の赤米」栽培を実施する。
- ・清流での「小佐米づくり」を売りに「3アールオーナー制」圃場を準備しお米作りを呼びかける。

#### (2) 地域活動を拡大していくための工夫等

- ・過疎地活性化のための仕掛けを小佐地区全体で取り組んでいく。  
※廃校となっている「旧小佐小学校」を活動拠点とした取り組み
- ・山と川と田んぼをセットにして、環境改善のための林業・漁業・農業に取り組む組織作りをする。  
※山→自伐型林業 川→休耕田を利用したヤマメ飼育 田→有機農業での無農薬栽培
- ・神戸の林 徹氏（環境プランナー）と協力し、神戸から希望作業者を募る。  
※都市部の有機農産物生産に興味関心のある人々を小佐地区に呼び込み、米や野菜作りをする



R7/8/14 水生生物学習（ヤマメのつかみ取り）



R7/8/14 水生生物学習（ヤマメ釣り）



R7/9/7 有機野菜の栽培実践学習